マイナスをプラスに変える防災教育

「まちづくり」をテーマにした総合的な学習の時間からのアプローチ

中原 真二（札幌市立幌西小学校 教諭）、新保 元康（札幌市立発寒西小学校 校長）、栗原 聡太郎（札幌市立澄川西小学校 教諭）、工藤 みゆき・藤井 美智子（一般社団法人北海道開発技術センター）

“はじめに”

本発表は、防災教育において**「災害の現象や被害などのマイナスイメージ」を学ぶだけではなく**、子どもたちに**「自然と共生する・生かす」というプラスイメージ**をもたせ、このような防災教育の可能性について、「まちづくり」「観光」をテーマとした**総合的な学習の時間からアプローチ**を試みたものである。

北海道西胆振地区とは?

小規模な火砕サージ（1978年8月）

20～50年周期で必ず噴火すると言われている有珠山。火山との共生が大きなテーマとなっている。

写真：「有珠山火山防災マップ」

北海道の南西部に位置し、道内有数の観光地洞爺湖があり、緑豊かな田園風景が続く地域。基幹産業は、農業、水産。

概 要

■札幌から
・距離：150km程度（車で2時間程度）

■人口（H28.7.31現在）
・伊達市：35,236人
・豊浦町：4,229人
・洞爺湖町：9,243人
・壮瞥町：2,666人

求められることは持続的な人づくり

- 火山の特性を正しく理解する
- 噴火の記憶や減災の知恵を伝承する

噴火で誕生した温泉

洞爺湖有珠山マイスター制度とは?

- 正しい知識や噴火の記憶を世代を越えて語り継ぐ、「学びと伝えの実践者」
- 地域防災のリーダーだけでなく、地域の**魅力を発信**する役割も果たす
- 現在、40名が登録されている。「地域限定」の制度
- 「地域限定の称号」である

岡田 弘 氏
（北海道大学名誉教授）
写真：NPO法人環境防災総合政策研究機構HP

飯田 理 氏
（洞爺湖有珠火山マイスター）

洞爺湖有珠火山マイスターの活動風景

6学年総合的な学習の時間：単元「HOME－わたしたちのまちづくり－」

学習問題【1】

魅力あるまちNO.1札幌のひみつをさぐろう

板書①

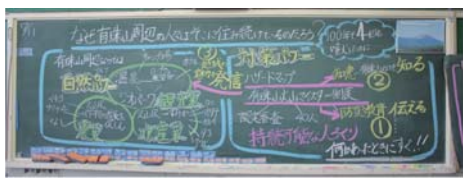
学習問題【2】

小樽のまちづくりはどうなっているのかな?

板書②

学習問題【3】

有珠山周辺のまちづくりはどうなっているのかな?


板書③

①なぜ、30年に一度噴火するのに、有珠山周辺の人たちは住み続けているの?

子どもの考え

- お金がもうかったり（温泉や観光）、自然を実感できたりするから。
- こんなきれいな景色を見ることができる。噴火の経験があるので、対処の仕方がわかっているから大丈夫。
- 有珠山、洞爺湖、昭和新山など、その景色を地元の人は「誇り」に思っているから。
- ハザードマップがあり、マイスターがいるから、地元の人は常に冷静に備えている。

ハザードマップ

②なぜ、岡田さんは、洞爺湖有珠火山マイスターを地元の人限定の資格にしたの?

板書④

子どもの考え

- その土地のことがよくわかっている人の方がいざというときにかけつけられるから。
- 地元の人が誰よりも有珠山のことを誇りに思っているから。
- 伝えていくことが大事だから、離れていると伝える人がいない。
- 防災だけではなく、観光の産業も大事。魅力を伝えるのは地元にいてこそ。

【成果】

板書⑤

有珠山の研修の様子

マイブック

ワークシート

子どもの感想

- ほかに山や海を生かしているまちや、その自然をどう生かしてまちづくりをしているか知りたい。
- 日本のほかの地域では、有珠火山マイスターのような制度はあるのか知りたい。
- ほかの災害（地震や津波など）では、どのように対策をしたり、生かしたりしていけば良いのかを知りたい。
- 日本以外の国でも同じように共生しているのだろうか。

まとめ

- 防災教育では、マイナスイメージだけ強調するのではなく、「自然と共生する・生かす」というプラスイメージをもたせたい。
- 有珠山火山マイスターなど、体験できる教材を通して、具体化・焦点化する。このような人に出会うことで、「持続可能な人づくり」は実感できる。

【発表者・お問合せ】中原 真二（札幌市立幌西小学校 教諭）　札幌市立幌西小学校　TEL：011－561－2201　FAX：011－551－6213